

国内株式相場の急落と今後の見通し

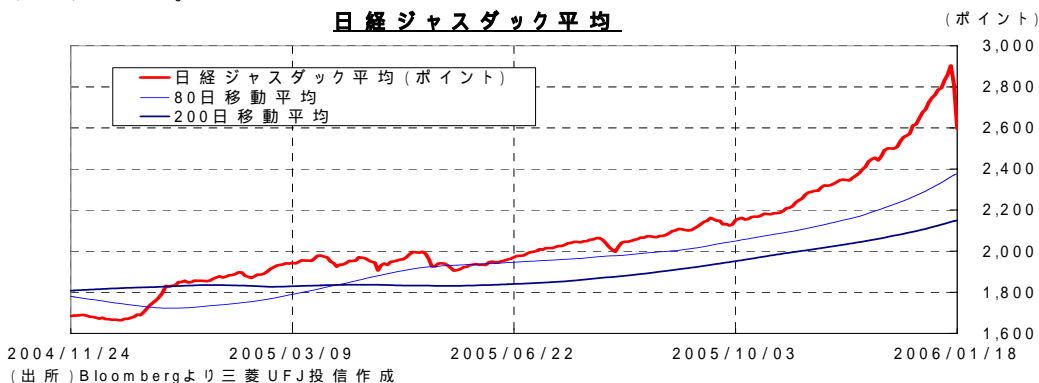
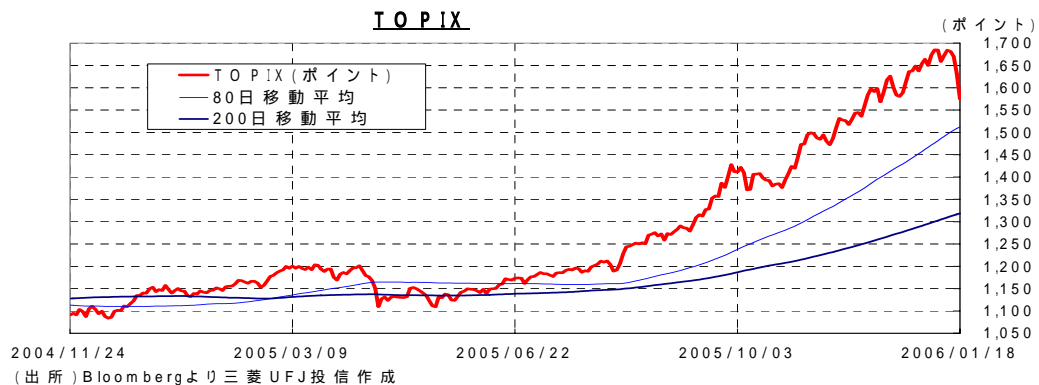
国内株式相場は、17日、18日と連日急落しております。18日の前場の引け値時点では、東証株価指数(TOPIX)が前日比 56.63ポイント、日経平均株価が 410.29円となっており、これで、17日、18日(前場まで)を合わせた下落率は、ともに5%超に達しました。

株価急落の背景としては、インターネット関連事業や企業買収などで急成長を続けてきたライブドアが証券取引法違反(偽計取引、風説の流布)などで東京地方検察庁と証券取引等監視委員会の家宅捜索を受けたことを嫌気し、このところ活況だったジャスダックやマザーズなどが大幅に下落したこと、昨年夏場以降、ほぼ一本調子に相場上昇が続き、信用取引や裁定取引の買い残高が急増するなど過熱感が高まっていたこと、などが挙げられます。ライブドアには、さらに粉飾決算の疑いも出ており、国内株式相場はしばらく波乱含みの状況が続くと考えられます(なお、午後に入り、東京証券取引所がシステムの処理可能件数を超える可能性があり、その場合は株式の全銘柄の取引を停止するとのコメントを発表したことから、株価の下げは加速しております)。

しかしながら、国内景気は情報技術関連(IT)需要や海外景気の持ち直しなどから設備投資や輸出が堅調であるほか、雇用・所得環境の好転もあり、回復傾向が鮮明化しております。また、企業収益も概ね好調に推移しており、今期、来期ともに増益基調を維持する見込みです。したがって、今回の株価急落はあくまで相場過熱の修正、即ち需給整理の色彩が濃く、中長期的な上昇基調を変えるものではないと考えられ、短期的な波乱が落ち着いたあとは、国内景気回復や好調な企業業績を反映し、徐々に緩やかな上昇トレンドに復帰する見込みです(今後3ヵ月間予想中心レンジ、TOPIX=1,450~1,800ポイント)。

	2006/1/18	2006/1/17	前日比	
			騰落幅	騰落率(%)
日経平均株価(円)	15,395.66	15,805.95	-410.29	-2.60
TOPIX(ポイント)	1,574.98	1,631.61	-56.63	-3.47

(注意)1/18の値は前場引け値(11:00)現在。



以上